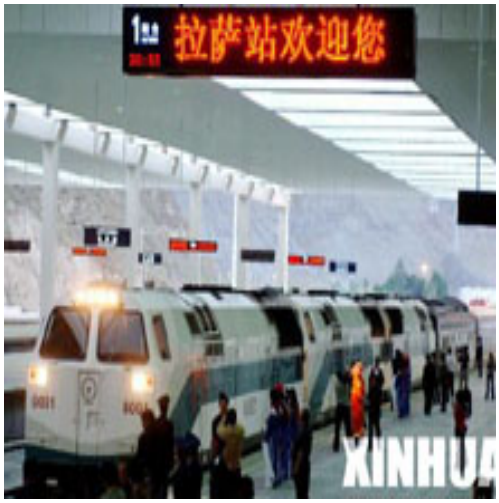
海抜最高の鉄道――青蔵鉄道の開通に伴う西蔵観光ブーム

I.W(中国)





衆目を集める西部大開発のシンボル的プロジェクト「青蔵鉄道」(青海省の格爾木〔ゴルムド〕と西蔵〔チベット〕自治区の拉薩〔ラサ〕を結ぶ)は、全長 1100 キロメートルで、線路の大部分が、自然環境や気候がきわめて厳しい無人地区に相当する。

今年(2006 年)3 月、貨物列車の運行を開始する。7 月 1 日には、全線の試運転に入る。高山地域での列車の旅を快適にするために、列車には微に入り細にわたる工夫が凝らされている。振動対策用のエアバック、紫外線防止用のフィルム、車両内の酸素量を制御する 2 方式の酸素共有システムなど、さまざまな設備が用意されている。また、車両が気密式のため、全車両とも禁煙という。車内の清潔を保つために、列車には廃棄物、廃水の回収設備も完備している。

青蔵鉄道の開通に伴い、西蔵(チベット)観光ブームがにわかに高まっている。観光客の一番のお目当ては、国連教育科学文化機関(ユネスコ)の世界文化遺産であり、国の重点文化財にも指定されている「布達拉(ポタラ)宮」だ。布達拉宮の保護と観光客の便宜とのバランスを考え合わせ、西蔵自治区文物局(文化財部門)は 1 日から、参拝客受け入れ数の上限を従来の 1500 人から 2300 人(巡礼者含む)に増やした。

観光業は西蔵の特色を生かした地場産業の筆頭だ。2004 年、西蔵を訪れた観光客は初めて 100 万人の大台を突破し、2005 年には 180 万人を超えた。青蔵鉄道の開通後、観光客数は年間 15%から 20%増加すると予想される。2010 年には、鉄道で西蔵入りする観光客が 250 万人に達し、観光客全体では 528 万人に達すると見込まれている。

青蔵鉄道の完成と開通は、中国の現代的建設で 1 つ得られた偉大なる成果だ。世界各地の人々や各民族の人民との絶好の交流の橋になると思う。







（写真：www.cnsphoto.com 中国新聞図片網）